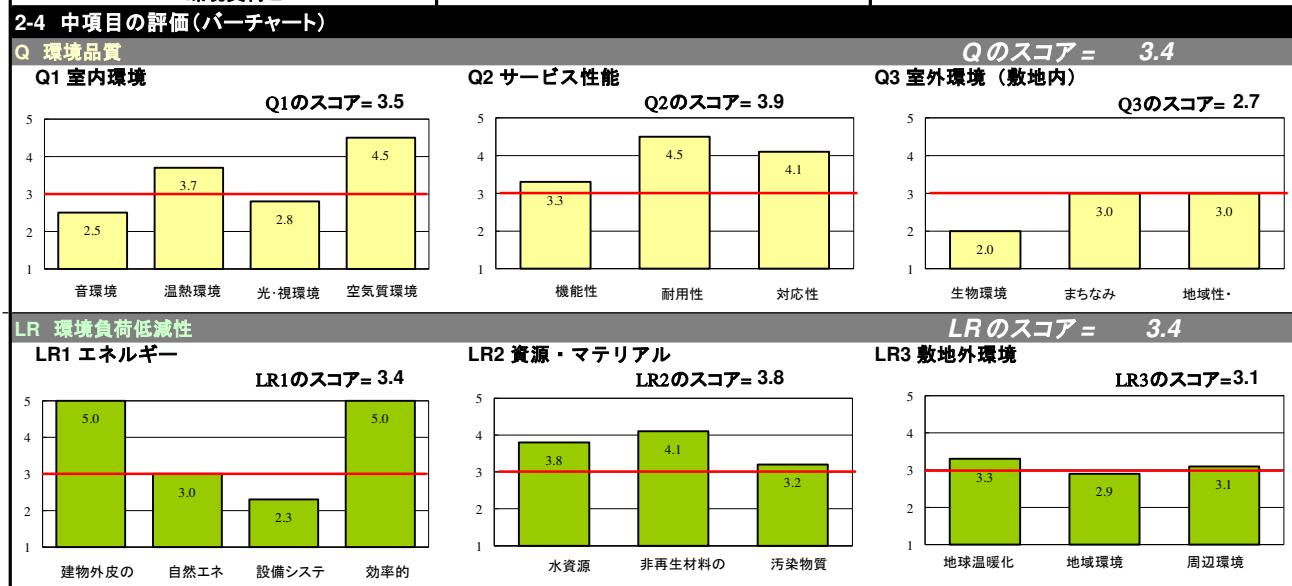
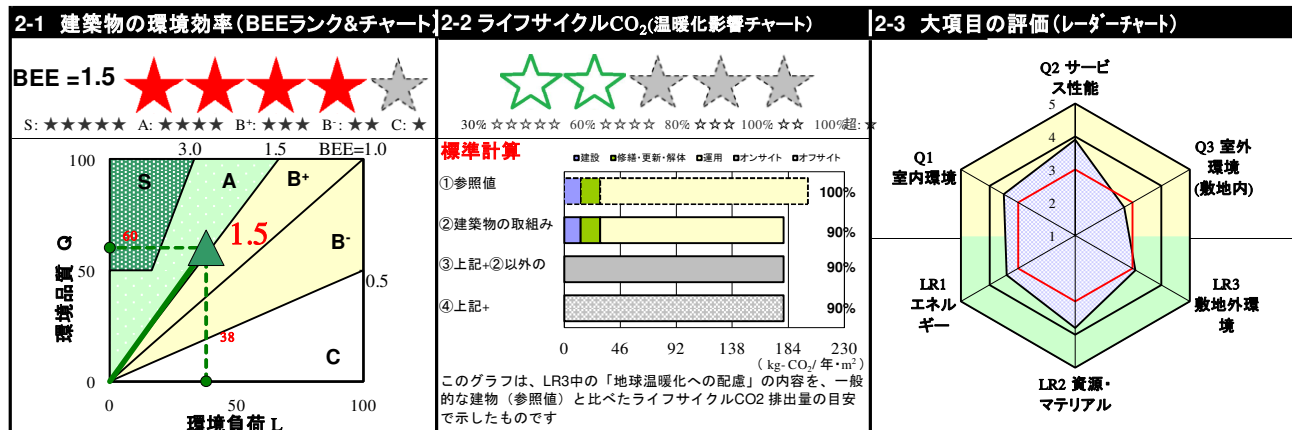


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学(吹田)医学部附属病院総合診療棟等新築工事	階数	地上8階、地下2階
建設地	大阪府吹田市山田丘	構造	SRC造
用途地域	都市計画区域、市街化区域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2024年7月8日
敷地面積	12,480 m ²	作成者	株式会社日建設 本田孝子
建築面積	9,081 m ²	確認日	2024年7月8日
延床面積	68,418 m ²	確認者	株式会社日建設 本田孝子



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
日本の医療・医学発展の拠点病院として、高度先進医療を提供する「総合診療棟」を新たに計画する。病院として求められる機能の高機能化に加え、災害に強く環境負荷を抑えた建物として計画する。	-
Q1 室内環境 病室において窓からの日光を十分に取り入れ、光環境向上をめざす。また敷地内を禁煙とすることで、非喫煙者が副流煙に晒されないよう配慮する。	Q2 サービス性能 充分な耐震性能、免震装置の採用や災害時の設備機能維持に積極的に取り組み、建物の耐用性・信頼性向上を図る。
Q3 室外環境 (敷地内) 可能な限り植栽を配し屋外環境の快適性向上を図る。周辺のまちなみに対して吹田市景観デザインマニュアルに配慮した設計を取り入れる。	
LR1 エネルギー 外気冷房に、自然採光による自然エネルギーを採用。建物運用におけるエネルギー消費状況を、把握可能なシステムを取り入れることで効率的な運用に繋げる。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具採用による水資源保護。非再生性資源の使用量削減。汚染物質含有材料の使用回避による環境負荷低減を図る。
LR3 敷地外環境 建物エネルギー消費量削減よりLCCO2を低減させる。また光害抑制から周辺への環境負荷抑制を図る。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		大阪大学(吹田)医学部附属病院統合診療棟等新営その他工事								
建設地		大阪府吹田市山田丘								
用途／区分		病院								
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A			
①	CO2削減						3			
②	みどり・ヒート アイランド対策						3			
③	断熱性能							5		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
④	エネルギー消費性能							2		
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外 					評価対象外 1		
⑤	自然エネルギー直接利用							—		
	再生可能エネルギー		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	2.3	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	特になし	